



51年目、さらなる飛躍へ



昨年、おかげさまで50周年の節目を迎えた高石市。未来に向けて本格的に始動する平成29年の新年号では、記念式典とおもな記念事業を市民のみなさんに紹介、改めて一緒にお祝いしたいと思います。思いやり支え合うぬくもりあるまちづくりの実現に向け、高石市はこれからも歩んでまいります。



10月30日

50周年記念式典

10月の最終週に行われた50周年記念ウィークの最終日、アプラたかいし大ホールで50周年記念式典が盛大に開催されました。オープニングは、高石市出身の名誉市民でJリーグ創設の立役者である川淵三郎さんとのトークセッション。リオオリンピック出場選手を生み出す高石でさまざまに奮闘する中高生との語らいのあと、式典では来賓の紹介と祝辞、市政功労者への表彰、市民の笑顔あふれる幸せを集めた心温まるイメージビデオの上映と続き、最後にさらなる発展を期した万歳三唱が行われ、会場は大きな拍手に包まれました。



司会はNHKに出演している清風南海高校出身の気象予報士・福岡良子さん



高石市出身のオペラ歌手・堀口莉絵さんによる国歌独唱で式典がスタート



川淵さんが高石市に込めたメッセージ「高い志 大きな夢を育む街」を、日本を代表する書道家、「墨の魔術師」金田石城さんが書にして寄贈。市役所のロビーに展示した

川淵三郎氏と市長と未来を託す高石の青少年たちの語らい

川淵さんは高石小・中学生の時は野球をされていましたが、高校時代からサッカーを始められました。全国大会で活躍後、早稲田大学に進学し、1964年東京オリンピック日本代表として強豪アルゼンチンからの奇跡の勝利に貢献しました。

その後、Jリーグを創設して

現在のサッカー界の隆盛を築き、最近ではBリーグ(プロバスケットボール)を創設、また2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、今やスポーツ界全体のリーダーとして活躍されています。

「私には人生の師が2人います」と川淵さんはいいます。1人



埋め立て前の高石の浜で遊んだ思い出から、貴重な写真とともに、ひとつずつ夢を実現していったエピソードを披露してくれた川淵さん。壇上の太田さん、高南中学校女子ハンドボール部、取石中学校女子バスケットボール部・テニス部・陸上部の選手と合唱部が川淵さんのことばをかみしめた

目を小学生時代の恩師、吉岡たすく先生です。高石小学校時代からNHKの児童ラジオ劇に出演して、流暢なせりふをこなせるようになり、先生から「自分の人生は自分で考えなさい」と教わりました。2人目は東京オリンピックの代表選手として出会ったデットマール・クラマーさん。クラマーさんにはアルゼンチン戦の前、ドイツ人でありながら「君たちに大和魂はあるのか」と指導していただいたと川淵さんは話されました。

続いて、中学時代、本市の青少年を代表して全日本学生音楽コンクール全国大会ピアノ部門で中学生の部第1位を獲得した太田糸音さんによるピアノ演奏を聴いたあと、高石市内のスポーツ活動などをがんばっている中学生たちから「どうしたらオリンピックに出られるんですか?」と聞かれたときには、「私はサッカーが好きでそれに1万時間没頭した。」



世界で活躍する高石市出身の高校生ピアニスト・太田糸音さんが演奏した

みなさんも「これ」と思ったことがあれば一生懸命それをがんばりなさい。必ず成果があがりますよ。また、体の小さな選手であれば、1日5回食事をすること。そうすることです。練習や試合でもイタリリーグで活躍している長友選手のように「世界と渡り合えるようになりますよ」とやさしく答えられました。

最後にはステージの川淵さん、阪口市長、司会の福岡さん、市内の中学生を始め、会場のみなさんと童謡「ふるさと」の大合唱で終了しました。

50周年特別表彰

市に多大な貢献をいただいた254の功労者と団体へ、表彰状と記念品を贈呈しました。



市政、福祉・民生、保健・医療、教育・文化・スポーツ、自治振興などの分野で表彰

10月24日

第2回天女サミット

50周年記念ウィークは、アプ
ラたかいし大ホールで行われた
天女サミットから始まりまし
た。滋賀県長浜市、京都府京丹
後市、沖縄県宜野湾市が参加し
て、天女を活かしたまちづくり
の可能性について話し合うとど
もに、10月24日を語呂合わせで
「天女の日」と制定。日本記念日
協会に登録しました。

今回のサミットでは、福島県
川俣町と直前の地震により鳥
取県湯梨浜町と倉吉市が欠席
となりましたが、災害時にも連
携し、助け合える体制づくりや
協定についても活発な意見交換
がなされました。また、宜野湾
と高石の「はごろも」という同
じ名前の小学校の生徒同士に
よるインターネットを通じた意
見交換では、会場は微笑ましい

霧田気に包まれ、あたたかい拍
手が送られました。
最後に「天女の日」制定の合
意書に各市長がサイン。今後も
交流を続けながら、まちの活
性化を目指していきます。



「いくらサーカス」による、天井からつるされる長い布を使った空中のダンスパフォーマンスでは、羽衣天女が空を舞うような美しく迫力ある演技が来場者の目を釘付けに



オープニングは川俣町の特産品「妖精の羽(フェアリーフェザー)」を手にした元OSK日本歌劇団・桜花昇ぼるさんのコンサート



ふるさと寄附金謝礼品に追加された湯梨浜町の「天女の梨クーヘン」。湯梨浜町には高石からの「つぼ市のお茶」がラインアップ



各市町の天女を活かしたまちづくりの紹介からサミットはスタート (左)コーディネーターを務めた高石市ブランド戦略アドバイザーの橋爪紳也さん (右)左から阪口市長、長浜市・藤井勇治市長、京丹後市・三崎政直市長、宜野湾市・佐喜眞淳市長

2回 天女サミット



調印式後、固い握手を交わす各市長と橋爪さん



「宜野湾市はごろも小学校」と「高石市羽衣小学校」の児童が、大スクリーン上でインターネットを通じたテレビ電話で意見交換。「給食にお好み焼きは出るか」「たこ焼きなら出たことがある」など小学生ならではの会話が来場者を楽しませた

今年のレジャーは、天女サミット共同宣言のまちへGO!

●川俣町(福島県)



4/29(土)~30(日)
第13回川俣シャモまつり
in 四季の里
福島県認証ブランド地鶏を多彩なメニューで味わえる
※会場は福島市

●長浜市(滋賀県)



4/13(木)~16(日)
長浜曳山まつり
ユネスコ無形文化遺産に登録された日本三大山車祭の一つ。曳山上の子ども歌舞伎も必見

●京丹後市(京都府)



8/6(日)※予定
フェスタ飛天
羽衣伝説、七夕伝説をコンセプトにした市民による手作りイベント。太鼓やよさこい等も

●倉吉市(鳥取県)



4/23(日)※前夜祭22日
関金つつじ温泉まつり
かつて関所として賑わった開湯1300年の温泉街で、満開のつつじとともに関所遊びを楽しめる

●湯梨浜町(鳥取県)



6/10(土)~11(日)
第29回グラウンド・ゴルフ
発祥地大会
全国から集まったプレーヤーが熱い戦いを繰り広げる

●宜野湾市(沖縄県)



4/8(土)
JAL PRESENTS
第14回琉球海炎祭
花火と音楽、沖縄の文化を融合させた日本で一番早い花火大会

郷土史展

旧石器時代から現代までの高石の歴史を展示物とパネルで紹介しました。古代の土器や武器、装身具や埴輪など遺跡・古墳からの出土品、古事記や延喜式神名帳にも記載されている神社、「音に聞く高師浜の……」と和歌にも詠まれた美しい白砂青松、高石大工村の大工によって発明され、当時の農生産力の向上に寄与した千歯扱き、江戸く明治以降の歴史的建築物等々、ふだん目にする機会の少ない郷土史について、未公開のものも含む貴重な展示に、来場者は深く見入っていました。なお、1月25日から1週間、高石市立図書館において古墳時代のパネル展を行う予定です。



来場者アンケートより

- ・ずっと住んでいても知らなかった歴史がわかり楽しかった
- ・古墳があるなど、高石が歴史の古いまちとは初めて知った
- ・大変参考になりました。高石住民で幸せです
- ・すごく懐かしい風景に会えてうれしかった
- ・母より伝え聞いていたことを確認でき、感動しました
- ・このまちを大切に、古きことを後世に伝えたいと思った
- ・昔の歴史が後の存在につながっていく認識を深められた
- ・展示されていたところに行ってみようと思います など

10月24～30日

50周年記念展示

50周年記念ウィークの期間中、アブラたかいし・ギャラリーでは、高石のこれまでの歴史と、未来を担う子どもたちの作品が展示されました。

絵画・作文コンクール展

小学1～3年生が描いた絵画「わたしの住みたい50年後のたかいし」の優秀賞30点と、4年生～中学校3年生が書いた作文「50年後の高石」の優秀賞24点を展示。市内7小学校と3中学校のなかから選ばれた作品は、どれも明るさと希望にあふれていました。



10月29日

保育園・認定こども園合同発表会



和太鼓、ダンス、マーチングといった演技を、みんなが呼吸をあわせてやり遂げました。ふだんはかわいい子どもたちも、この日は凛々しく感じられました

10月28日

老人クラブ連合会演芸大会



民謡、舞踊など、仲間たちと切磋琢磨してきた演芸を大きな舞台上で披露し、楽しいひとときを過ごされました

50周年記念事業はほかにいろいろ

11月1日の市制施行日に先立つ1週間は「市制施行50周年記念ウィーク」として、記念式典や天女サミット、郷土史展、絵画・作文コンクール展のほかにもさまざまな事業が実施されました。

ほかに、市民のみなさんの手によるたくさんの記念事業が3月末まで予定されています。市制施行50周年をみなさんとともにお祝いできることを、本当にうれしく思います。